

第2章

木津川市の現状



第2章 木津川市の現状

1. 社会的条件

(1) 歴史

古代～中世

- かつて平城京の外港であり、木津川を介した交流拠点
- 恭仁京の造営（首都）

市域の中央を流れる木津川は、淀川を通して瀬戸内海に入り、古来から東アジアの国々とつながっていました。古墳時代には木津川右岸の良く見える場所に椿井大塚山古墳が築造され、大和東南部に成立したヤマト王権と結びついた権力者がこの地域を治めていたと考えられています。飛鳥時代には大陸からの使節を応接するための迎賓館と考えられている高麗寺が木津川沿いに造営されました。また、高麗寺の対岸に位置する奈良時代の^{こうづ}上津遺跡は、当時「泉川」と呼ばれた木津川に設けられた「^{いすみつ}泉津」と考えられ、平城京の外港として都や寺院を建設する木材をはじめ物資の集積地となり、これが「木津」の地名の由来となっています。

天平12年（西暦740年）12月、聖武天皇は市域の鹿背山を境として、東を左京、西を右京とした恭仁京を造営し、5年にわたり日本の首都となりました。

- 京都と奈良を結ぶ歴史文化軸に立地（水路・陸路）
- 仏教信仰の寺院・霊地の形成—当尾の里

平安時代には、この地は平安京と平城京の間に位置する地域として、水路と陸路による往還が行われ、林業や農業生産が発展しました。

加茂地域南部に位置する「^{とうの}当尾」には、南都寺院の修行場が形成され、浄瑠璃寺や岩船寺などが造営されるとともに、その一帯が「^{おだわら}小田原」と呼ばれる仏教信仰の聖地となりました。

- 自治村落「惣村」形成
- お茶生産と商業活動の活発化

室町時代には、自治的な村落「惣村」が出現し、農作物では米、麦などとともに、早くから茶が生産されるようになり、商業活動も活発となりました。戦乱の中、この地の武士たちが中心になって「平等」と「自治」の郷づくりを目指した山城国一揆も大きな歴史のひとつです。

「木津」は京都と奈良、「加茂」は近江、伊賀と奈良を結び、木津川水運と街道の接点として、宿場の機能を持つようになりました。

近世～近代

- 交通の要衝（水運、街道）としての宿場町の形成
- 綿、茶、野菜、柿、筍等の都市近郊農業の発展
- 麻織物、木綿生産から襦地、壁紙生産へ

江戸時代には、惣村を基盤として新しい村々が生まれました。農地も増え、棚倉に移入された筍をはじめ、綿、茶、豆類、大根、ごぼう、柿など、多くの作物が生産され、都市近郊の優良な農業地域としての地位を深め、今日の近郊農業の基盤となっています。

木津川は、時には大水害を起こしましたが、都市と結び水運は重要な役割を果たし、淀川にも入れる淀二十石船と淀、伏見までの航行を許されていた地元の「六ヶ浜上荷船」が行き交っていました。「加茂」、「瓶原」、「木津」、「吐師」の四つの浜が市域にあり、この木津川水運の地の利を活かして、幕末から明治にかけて茶の輸出が増大し、「上粕」はその集散地、精製加工の場として発展しました。また、「相楽」を中心にして江戸時代の麻織物の技術を活かした「相楽木綿」の生産が、幕末から明治にかけて盛んとなり、日常的な衣服として流通しました。一方、麻織物は、加茂・上粕を中心に蚊帳や襦地として盛んとなり、戦後は壁紙生産へと発展しています。

現代

- 戦後合併で、昭和 26 年木津町、加茂町、昭和 31 年に山城町設立
- 昭和 50 年代より関西文化学術研究都市建設（主要クラスター形成）
- 平成 19 年 3 町合併で木津川市誕生

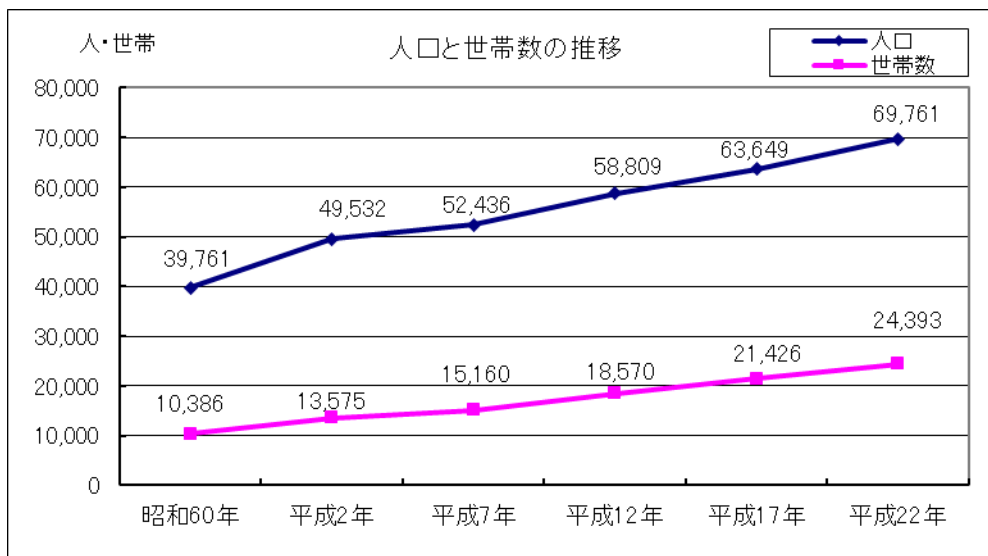
市町村域については、木津町と加茂町が昭和 26 年に、山城町が昭和 31 年に、明治以来の町村を統合して新町を設立し、さらに平成 19 年 3 月 12 日には木津町、加茂町、山城町が合併して木津川市が誕生し、現在に至っています。

（２）人口・世帯数の推移

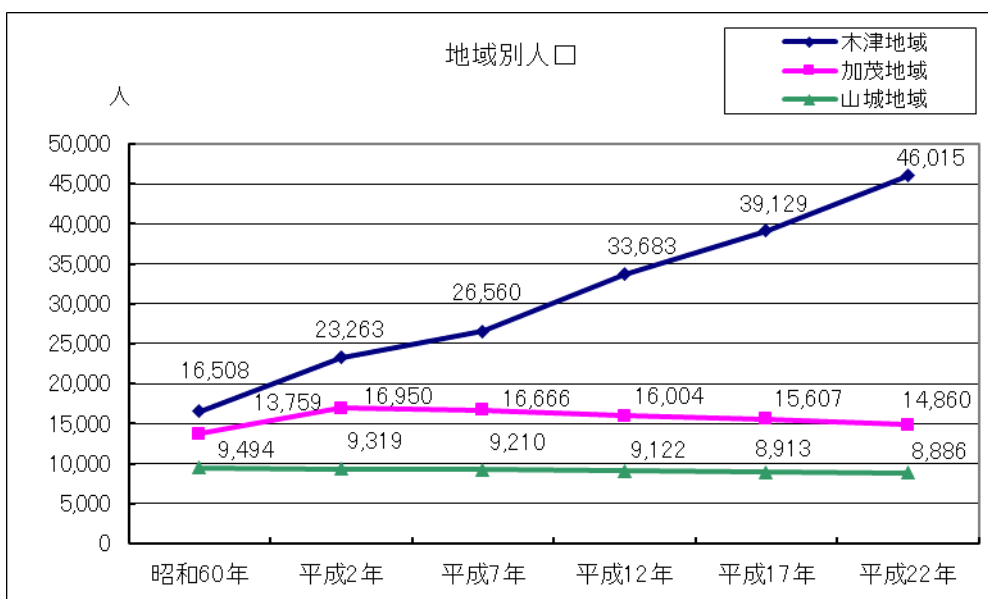
木津川市の人口（国勢調査）は、平成 12 年 58,809 人、平成 17 年 63,649 人、及び平成 22 年 69,761 人と増加傾向にあります。

世帯数（国勢調査）も増加傾向にありますが、単身世帯の増加や世帯分離が進み、一世帯あたりの世帯人員は減少が続いています。平成 17 年の世帯数が 21,426 世帯で、一世帯あたり人員は 2.97 人と 3 人を下回り、平成 22 年は 24,393 世帯、2.86 人/世帯となっています。

人口（国勢調査）を地域別にみると、木津地域では関西文化学術研究都市の進展により増加傾向が続いていますが、加茂地域は平成 2 年以降緩やかに減少しており、山城地域も漸減が続いています。



出典：国勢調査（昭和 60 年～平成 22 年）



出典：国勢調査（昭和 60 年～平成 22 年）

(3) 産業別就業者数

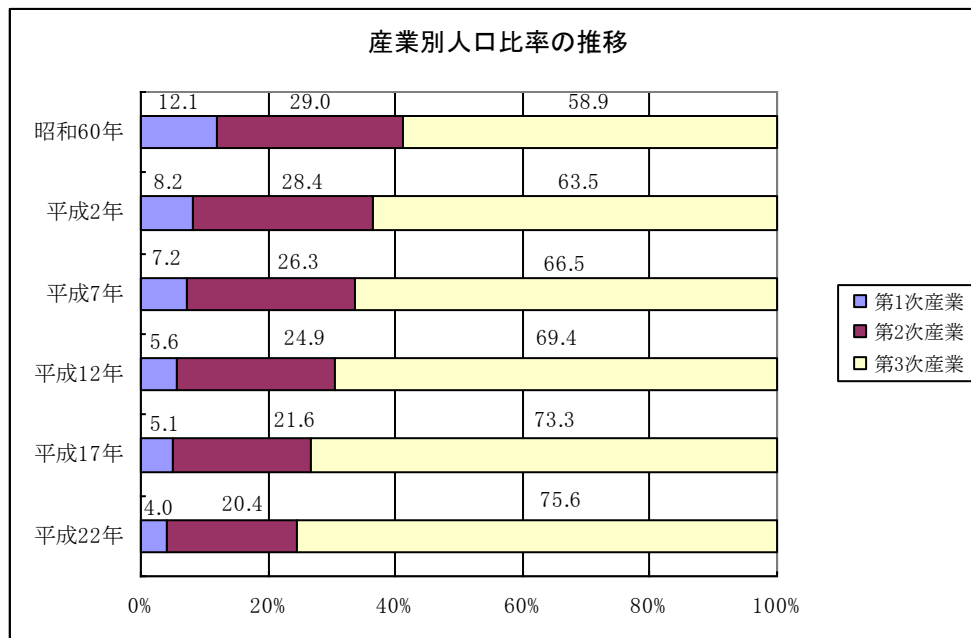
就業人口は、昭和 60 年からの推移では増加が続いていますが、総人口に占める割合はほぼ同じ割合で、平成 22 年では 44.6%とほぼ府平均（47.1%）並です。

産業別人口構成をみると、第 1 次産業及び第 2 次産業は減少が続いており、平成 22 年で第 1 次が 4.0%、第 2 次が 20.4%となっています。第 3 次産業は増加が続き、平成 22 年で 75.6%となっています。

農業比率は急速に低下しており、サラリーマン等主体の構成が強まっています。

表 産業別就業者数

	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
就業人口	18,251	22,274	25,057	27,910	30,073	31,137
対総人口	45.9%	45.0%	47.8%	47.5%	47.2%	44.6%



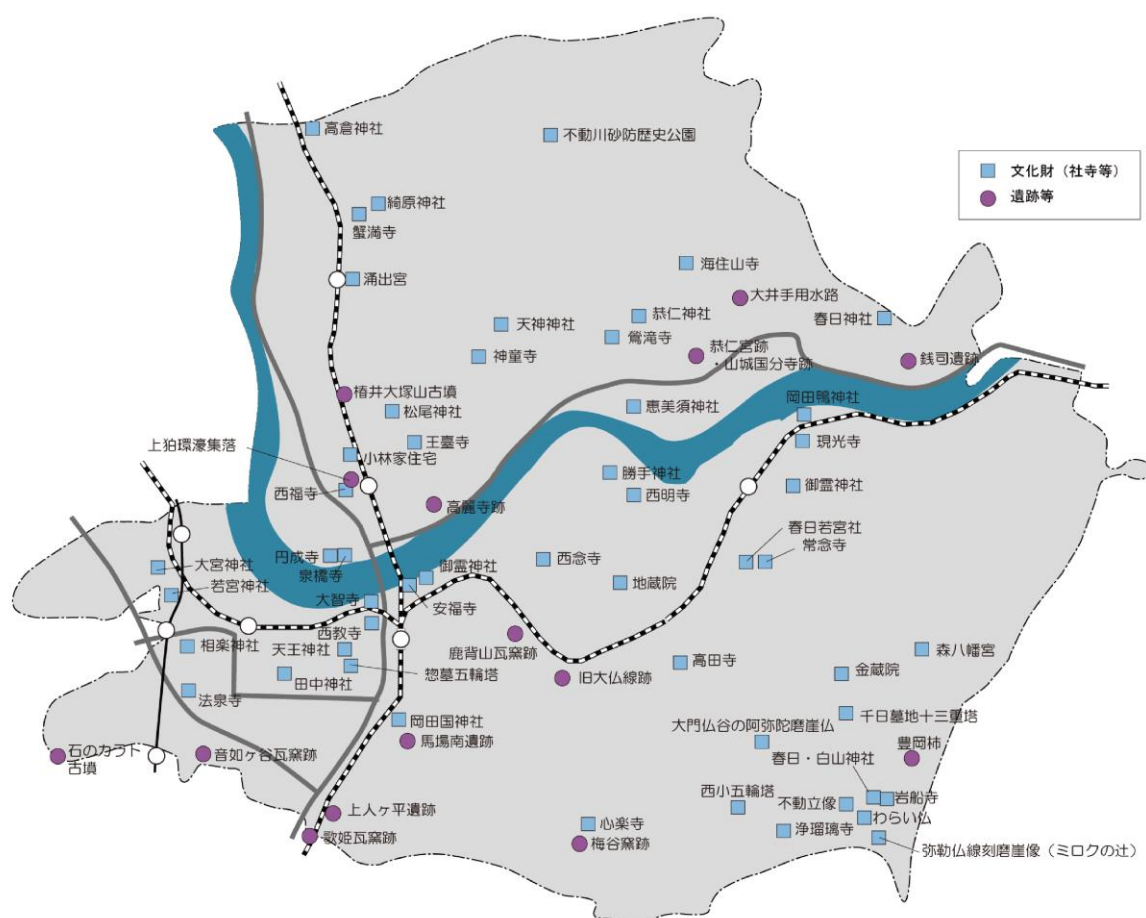
(4) 文化財

木津川市には、長いまちの歴史を反映して、神社仏閣や史跡などの歴史的文化遺産が数多くあります。

それらは地域のかげがえのない財産であり、地域の特色ある風景と魅力をつくりだしています。

主なものは図のとおりです。

図 文化財分布図



2. 自然的条件

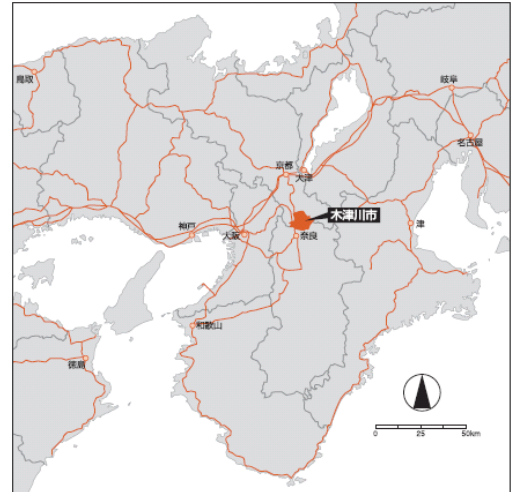
(1) 地勢

木津川市は、近畿のほぼ中央、京都府南部の山城地域に位置しており、京都・大阪の中心部から30 km圏内にあって、南は奈良市と接しています。当地域の北側と南東側に山地が広がり、その山地の間をぬって木津川が流れており、木津川に沿った地域に平野部が広がっています。

市域の総面積は85.12 km²で、土地利用の現況は、森林が32.14%で最も多く、耕地が15.90%、宅地が8.69%などの構成となっています。

(出典：平成24年度京都市町村のあらまし)

図 木津川市の位置



(2) 気象条件

平成23年の気象状況は、気温は年平均が16.0℃、最高気温36.9℃、最低気温が-3.9℃、降水量は総量が1,650.5 mm、日最大降水量が119.5 mmとなっています。平成14年からの変化をみると、平均気温は15℃前後で大きな変化は見られませんが、降水量は、平成14年以降増加傾向となっています。その他の気象状況は、以下の表のとおりとなっています。

表 気象概況

年	気温(℃)			降水量(mm)			最大風速時風向
	平均	最高	最低	総量	日最大降水量	降雪量	
平成14年	15.5	36.3	-4.1	975.0	42.0	-	北
平成15年	15.0	35.0	-4.4	1,719.0	106.0	-	南
平成16年	16.0	36.9	-5.2	1,592.0	97.0	-	北北西
平成17年	15.9	36.9	-3.7	954.0	54.5	100	南南西
平成18年	15.9	38.0	-3.0	1,582.5	69.0	160	西南西
平成19年	16.3	38.6	-2.4	1,212.5	70.0	10	北北西
平成20年	16.0	37.7	-2.2	1,430.5	118.0	130	北北西
平成21年	14.8	35.3	-2.7	1,932.5	89.0	770	北北西
平成22年	16.4	38.1	-2.5	2,061.0	141.0	30	西北西
平成23年	16.0	36.9	-3.9	1,650.5	119.5	19	東北東

出典：平成24年度 都市計画基礎調査

(3) 植生

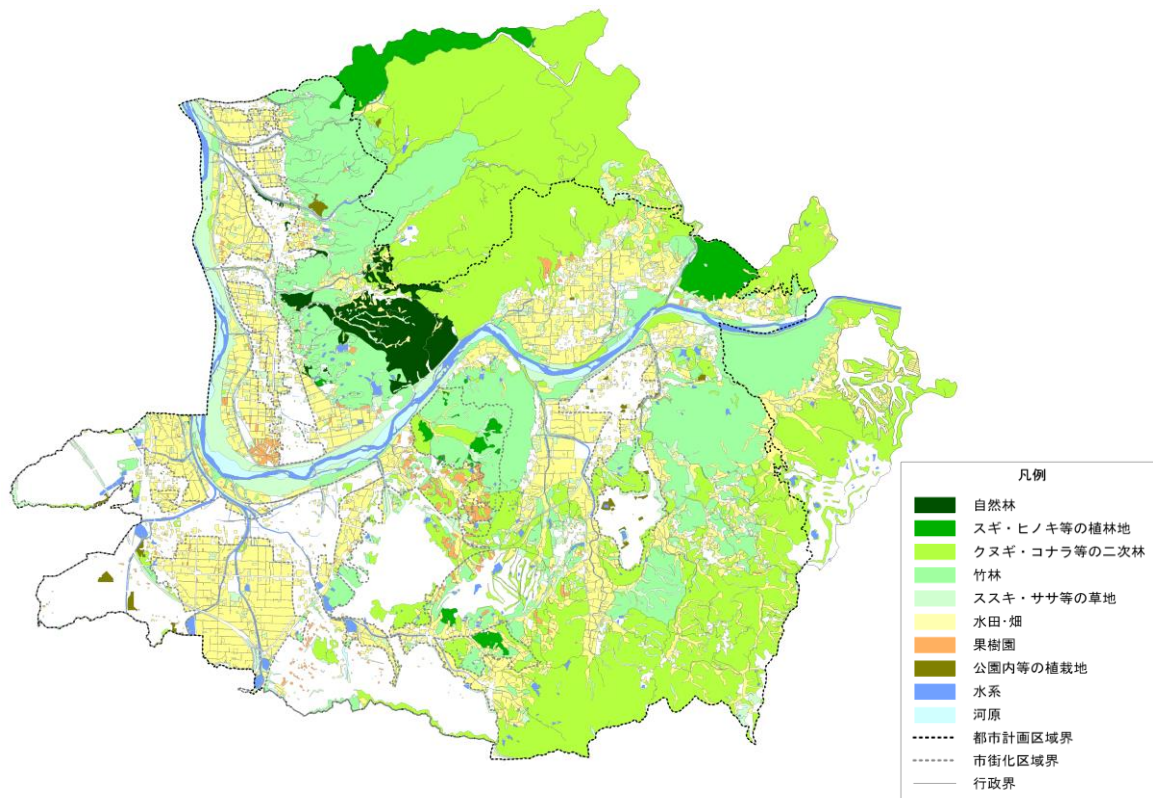
植生は、樹木地でのクヌギ等の二次林が最も多く、水田とともに主要な緑を構成しています。また、山城地域を中心として竹林の広がりが見られ、特徴的な風景を見えています。

表 植生現況量

単位：ha

区 分	市街化区域			市街化調整区域(4)	都市計画区域 (3) + (4) = (5)
	人口集中 地区(1)	(1)を除く 区域(2)	小計 (1) + (2) = (3)		
自然林	-	1.8	1.8	154.7	156.5
スギ・ヒノキ等の植林地	-	22.9	22.9	71.5	94.4
クヌギ・コナラ等の二次林	4.4	121.9	126.3	1,129.4	1,255.7
竹林	0.0	123.6	123.6	980.6	1,104.2
ススキ・ササ等の草地	8.0	66.5	74.5	461.4	535.9
水田	6.9	49.4	56.3	870.4	926.7
畑	6.1	47.5	53.6	409.2	462.8
果樹園	0.2	13.6	13.8	53.2	67.0
河原	-	2.3	2.3	80.8	83.1
公園内等の植栽地	5.6	7.9	13.5	4.8	18.3
合 計	31.2	457.4	488.6	4,216.0	4,704.6

図 植生の現況



＜天然記念物＞

京都府指定天然記念物 当尾の豊岡柿（平成 2 年 4 月 17 日指定）

＜特定植物群落（第 5 回自然環境保全基礎調査 平成 12 年 3 月環境庁）＞

○木津川河川敷のツルヨシ、セイコノヨシ群落

（旧山城町泉大橋より城陽市山城大橋付近）

河辺植生

※京都府では、昭和 53 年学術上貴重な植物群落保護を必要とする個体群及び植物群落等 83 群落を、特定植物群落と選定。

＜巨樹・巨木林（日本の巨樹・巨木林近畿版 平成 3 年環境庁編）＞

木津地域・岡田国神社のスギ（樹高 15m）

木津地域・橋本のイチョウ（樹高 11m）

木津地域・大里相楽神社のケヤキ（樹高 27m）

木津地域・西吐師のエノキ（樹高 23m）

木津地域・御霊神社のケヤキ（樹高 28m）

加茂地域・尻枝のカキノキ（樹高 23m）

加茂地域・中森春日神社のエノキ（樹高 20m）

加茂地域・河原恵比寿神社のクスノキ（樹高 28m）

加茂地域・仏生寺海住山寺のスギ（樹高 24m）

加茂地域・仏生寺海住山寺のヤマモモ（樹高 12m）

加茂地域・口畑のモチノキ（樹高 16m）

加茂地域・奥畑八幡宮のスギ（樹高 31m）

加茂地域・井平尾春日神社のイチョウ（樹高 28m）

（４）動物

＜絶滅危惧種以上（京都府改定版レッドデータ 2013 平成 25 年京都府）＞

○ハチクマ、オオタカ、サシバ、フクロウなど、いわゆる里山で繁殖する猛禽類も多く選定されています。

○河川敷の裸地に近い環境で繁殖する鳥として、シロチドリとコアジサシが絶滅危惧種以上のランクに選定されており、イカルチドリやイソシギとともに、こういった種にとって府内で最も重要な繁殖地は、木津川河川敷となっています。

(5) 水系

市域を貫通して流れる「1級河川木津川」が、東西方向から南北方向に流路を変える地点に本地域はあたり、その木津川に藤木川、山田川、山松川、鹿川、井関川（以上木津地域）、赤田川、丑谷川（以上加茂地域）、不動川、鳴子川（以上山城地域）などの中小河川が流下しています。

木津川の堤防内では、水面と草地などの植生に覆われている他、農地として利用されており、また、一部でグラウンドとして利用されています。

水系では、河川その他、農業用のため池が、山麓部等に多く造成されています。

(6) 緑地量

都市計画区域内に存在する現存緑地量は、公共緑地が65.4ha、その他の公共緑地が4,885.9haとなっており、本市の都市計画区域の約70%が緑におおわれています。内訳をみると、公共緑地は、「公園、緑地」が34.0ha、その他の公共緑地では「山林、原野など」が2,852.1haと最も多くなっています。

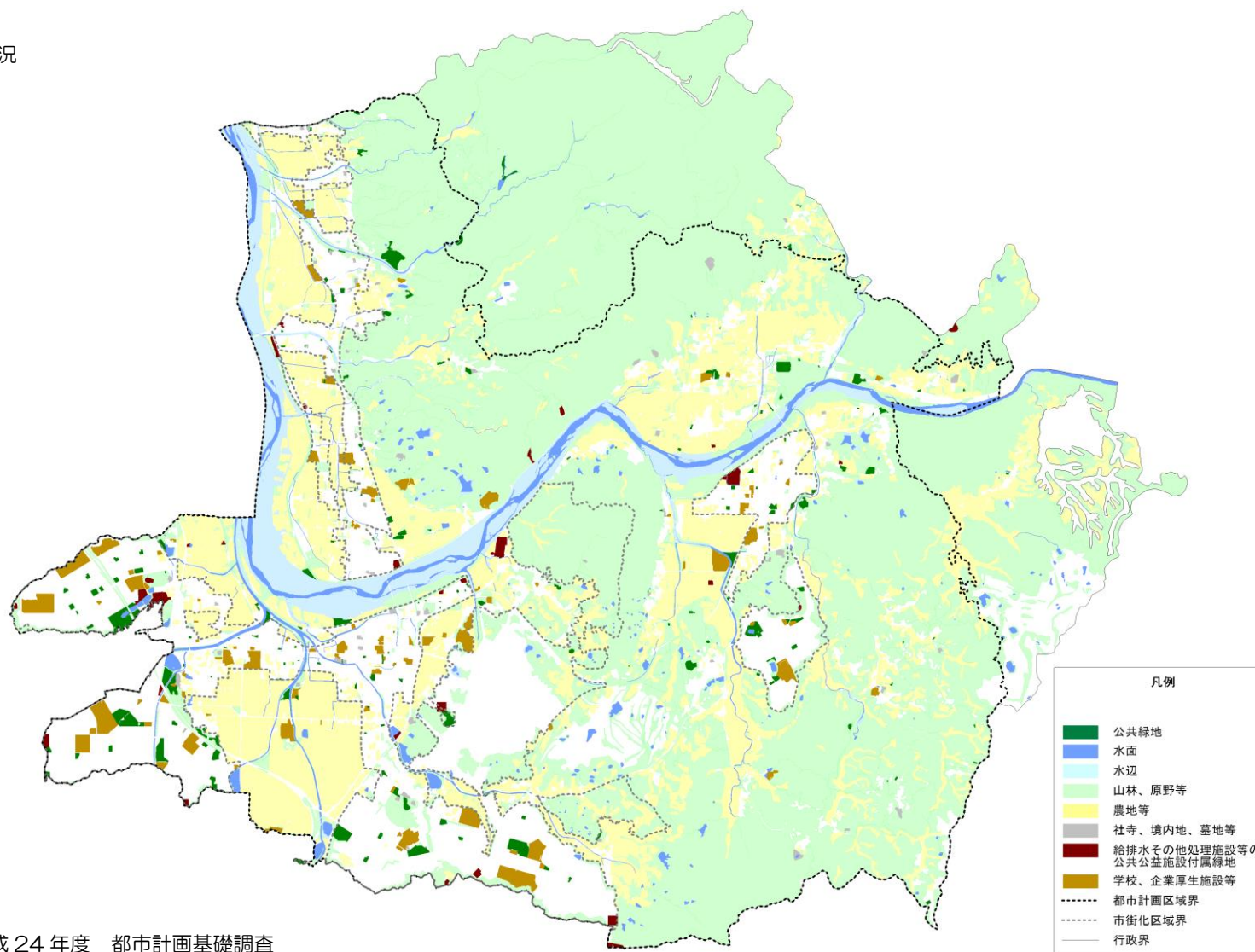
表 現存緑地量

単位：ha

区 分		市街化区域			市街化 調整区域 (4)	都市計画区域 (3)+(4) =(5)
		人口集中地 区(DID)(1)	(1)を除く 区域(2)	小計 (1)+(2) =(3)		
公共緑地	公園、緑地	8.2	19.4	27.6	6.4	34.0
	広場、運動場	1.8	7.4	9.2	10.2	19.4
	墓園	0.1	2.2	2.3	9.7	12.0
その他の公共緑地	水面：河川、水路など	6.1	11.7	17.8	137.9	155.7
	水辺：河岸など	1.8	9.4	11.2	279.1	290.3
	山林、原野など	8.0	320.4	328.4	2,523.7	2,852.1
	農地、牧草地など	10.2	91.1	101.3	1,344.4	1,445.7
	社寺、境内地、墓地など	2.1	5.2	7.3	9.5	16.8
	給排水等処理施設等の 公共公益施設付属緑地	1.3	9.8	11.1	6.0	17.1
	学校、企業厚生施設など	23.5	57.9	81.4	26.8	108.2

出典：平成24年度 都市計画基礎調査

図 緑地の現況



出典：平成 24 年度 都市計画基礎調査

3. 緑地の状況

(1) 都市公園の現況

本市の都市公園は、125 箇所（62.85ha）が整備されており、そのうち街区基幹公園として、街区公園 79 箇所（13.35ha）、近隣公園 9 箇所（16.91ha）、地区公園 3 箇所（12.38ha）が整備されています。

さらに都市緑地として、木津川台、兜台、相楽台などの学研地区において整備がされています。

表 木津川市都市公園の現況（平成 24 年 3 月末現在）

○都市公園箇所数・面積

	箇所数	総面積 (ha)
街区公園	79	13.35
近隣公園	9	16.91
地区公園	3	12.38
都市緑地	32	18.57
広場公園	2	1.64
合計	125	62.85

○市民 1 人当たり都市公園面積

	人口 (人)	都市公園面積 (㎡)	1人当たり都市 公園面積 (㎡)
市域内	71,524	628,615	8.8
内都市計画区域内	71,346	628,615	8.8
内市街化区域内	65,261	550,723	8.4

(2) 公共施設緑地の現況

○小中学校等のグラウンド

小中学校等のグラウンドは、地震災害時の広域避難場所に指定されており、地域住民の身近な緑地となっています。

○屋外レクリエーション施設

市民が日常的にスポーツ等を楽しめる屋外レクリエーション施設として、広場、グラウンド、テニスコートなどが整備されています。

(3) 民間施設緑地の現況

○社寺境内地

社寺境内地には、多くの樹木が残されており、地域の風土をかたちづくる貴重な緑となっています。

○ため池

河川沿い又は山麓部を中心に点在するため池は、農業施設であるとともに、水鳥や植物の生育環境であり、地域にうるおいを与える空間となっています。

○その他の民間施設緑地

市内には、周辺環境に配慮した事業所等の緑地があります。

(4) 地域制緑地の現況

地域制緑地として、保安林区域、地域森林計画対象民有林、農用地区域、河川区域及び指定文化財が指定されています。

○保安林区域（平成 20 年 11 月 19 日指定最終）

森林法に基づいて、山城地域の丘陵部を中心に、844ha 指定されています。

○地域森林計画対象民有林（平成 24 年 12 月 28 日指定最終）

森林法に基づく地域森林計画対象民有林は、3,026.62ha 指定されています。

○農用地区域（平成 18 年 6 月 12 日指定最終）

農業振興地域の整備に関する法律に基づき指定された農業振興地域は、4,314ha であり、そのうち農用地区域は、1,053.9ha となっています。その他生産緑地地区の指定を受けている農地が、4 箇所、3.23ha あります。

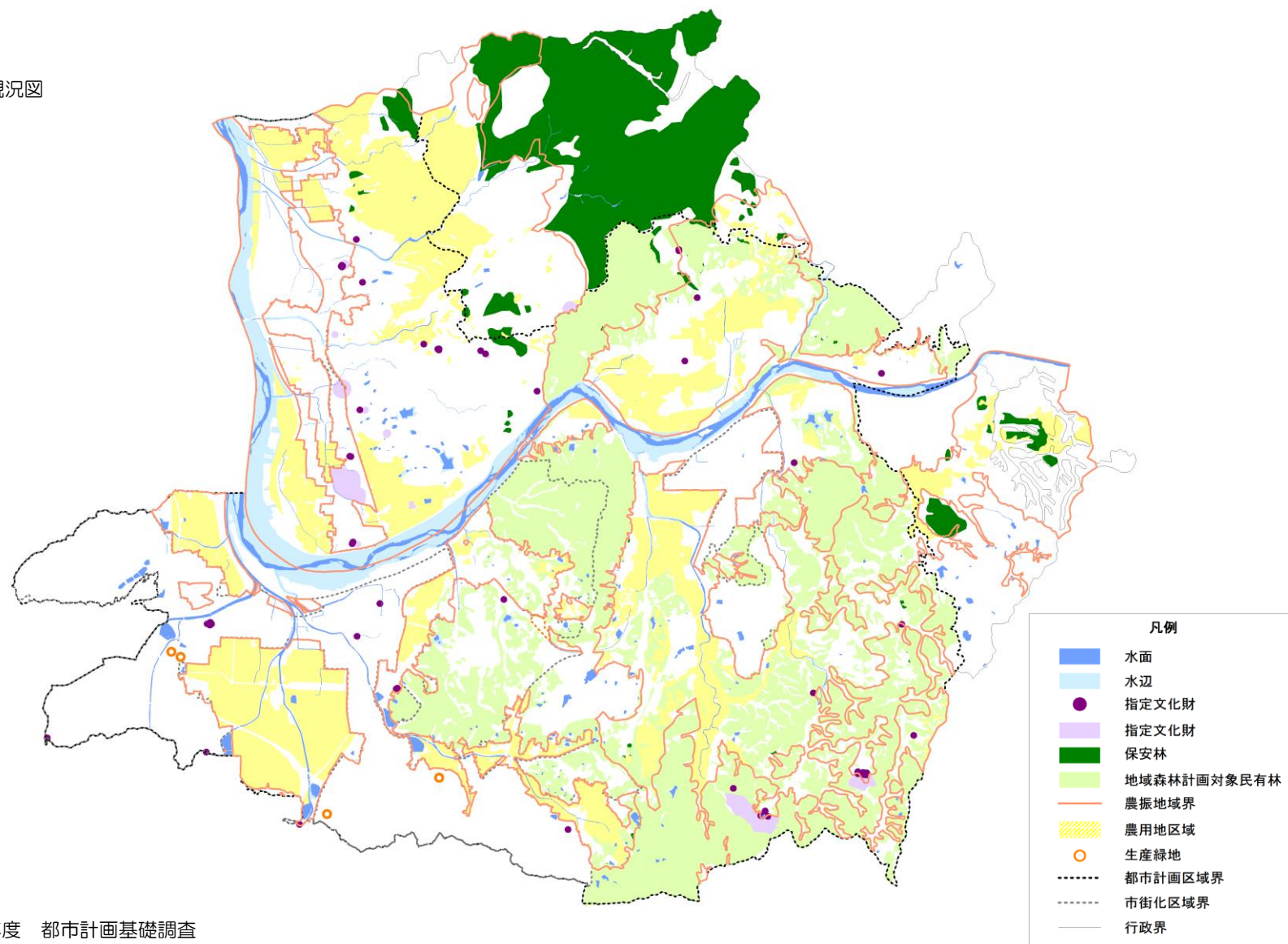
○河川区域

市内には、木津川を始め、多くの河川が流れ、広がりのある連続した緑の空間が確保されています。

○指定文化財

本地域には、長いまちの歴史を反映して、神社仏閣や史跡などの歴史的文化遺産が数多くあります。そのうち歴史的な自然環境保全地域及び文化財環境保全地区は、当該文化財とともに周辺の緑などを含むエリアを指定しています。

図 地域制緑地の現況図



出典：平成 24 年度 都市計画基礎調査

表 指定文化財（史跡、文化財環境保全地区など）

名称		分類	指定主体
浄瑠璃寺庭園		特別名勝・史跡	国指定
椿井大塚山古墳		史跡	国指定
高麗寺跡		史跡	国指定
石のカラト古墳（カザハヒ古墳）		史跡	国指定
恭仁宮跡（山城国分寺跡）		史跡	国指定
奈良山瓦窯跡	歌姫瓦窯跡	史跡	国指定
	音如ヶ谷瓦窯跡	史跡	国指定
	市坂瓦窯跡	史跡	国指定
	梅谷瓦窯跡	史跡	国指定
	鹿背山瓦窯跡	史跡	国指定
銭司遺跡		史跡	京都府指定
当尾の豊岡柿		天然記念物	京都府指定
稲荷山		名勝	木津川市指定
上粕環濠集落（環濠・大井戸・郷井戸）		史跡	木津川市指定
泉橋寺境内		史跡	木津川市指定
鳶ヶ城跡		史跡	木津川市指定
弁天山		名勝	木津川市指定
相楽神社文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
岡田国神社文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
和伎座天乃夫伎売神社文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
天神神社文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
松尾神社文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
八幡宮文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
白山神社文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
当尾磨崖仏文化財環境保全地区		文化財環境保全地区	京都府決定
当尾歴史的な自然環境保全地域		歴史的な自然環境保全地域	京都府決定

(5) 市街化区域における緑被の現況

本市の市街化区域（1,758ha）における緑被面積は 363ha であり、市街地緑被率は 20.6%です。

学研木津北・東地区については、現状山林として残っているため、特に緑被地が多くなっています。学研木津中央地区についても、土地区画整理の事業中であり、一部が山林のまま残っています。

既存市街地に注目すると、南加茂台地区には緑地協定により、計画的な緑化が進められているため、緑被地が多くなっています。

図 市街化区域における緑被の現況（緑被面積 363ha、市街化区域面積 1,758ha、緑被率 20.6%）



(6) まちの緑の特徴

○森林、農地などの緑が豊かなまち
(現存緑地量：都市計画区域の約70%)

- ・丘陵、里地里山環境を中心とする大きな緑の構造があります。

○市域中央を生態系豊かで地域のシンボルとなる河川が流れるまち

- ・シンボリックな河川等の水辺による緑の軸の構造があります。

○かつての都に近い立地から数多くの歴史的文化遺産をもつまち

- ・豊かな歴史的文化遺産と緑が一体となった優れた環境があります。

○国家プロジェクトである関西文化学術研究都市の主要クラスターがあるまち

- ・関西文化学術研究都市内の緑の充実と周辺地域との連続性の確保が求められています。

(参考) 木津川市の地域特性

①かつて都であった京都と奈良を結ぶ歴史文化軸上に立地

奈良市北郊にあって、京都山城地域の中でも古くから開けたところで水運陸運による交通の要衝

②近郊農業地域としての発展

奈良時代から「都の近郊」として、またその後も京都、大阪等の大都市近郊農業が発展

③関西文化学術研究都市の中核地

木津川市を含む3府県8市町にまたがる「関西文化学術研究都市」は、国家プロジェクトとして、わが国の文化・学術・研究拠点を担うものであり、本市はその中核地

④隣接する大都市の影響を受ける地域

古くから奈良、京都との関連が強く、加えて近年では大阪など周辺都市の影響を受けるようになり、一方、関西文化学術研究都市の建設で国際的な人の交流も展開

⑤木津川や山の緑など自然環境が豊富

本市には平地部の田園、周囲の山々、丘陵部の木々、木津川などから構成される豊かな自然環境と、これらの緑と調和した歴史的、文化的遺産は、地域の魅力を高める要素